京都文教大学人間学研究所主催　公開シンポジウム

老人よ大志を抱け

基調講演

都築響一

（編集者・写真家）

コメンテーター

林 幸治郎（ちんどん通信社 社長）

濱野清志（京都文教大学臨床心理学部教授）

司会

鵜飼正樹（京都文教大学人間学研究所所長）

日時

2010年3月7日（日）13時～16時30分

会場

京都文教中学・高等学校　岡崎キャンパス内　大島ホール

（京都市左京区岡崎円勝寺町5　京都市営地下鉄「東山駅」徒歩約5分）

入場無料・申込不要

京都文教大学人間学研究所公開シンポジウム

老人よ大志を抱け

人の真似して　ゆくようか　これでいいのさ　このままゆくさ
ゴー　ゴー　レッツゴー　回転禁止の　素敵な老後

京都文教大学人間学研究所は、文化人類学科・現代社会学科・臨床心理学科という３つのユニークな学科からなる大学の、共同研究を推進する機関です。学際的な知的交流の場として、独自企画による公開講演会・シンポジウム等を実施してまいりました。

今回は、編集者にして写真家の、都築響一さんをお招きして、「老い」をテーマに語っていただきます。

『TOKYO STYLE』『ROADSIDE JAPAN　珍日本紀行』『夜露死苦現代詩』『バブルの肖像』。都築さんは、現代日本を独特の目線から鮮烈に切り取った著作を発表してこられました。

こだわりをもって生きる、オリジナリティあふれる老人のことを、都築さんは「超老」と呼んでいます。「超老」たちは、超高齢化社会に突入した日本で老いてゆく私たちにとって、まさに先達です。

老いとは、じつは、驚くほどにパワフルで、ワイルドで、熱く、豊かで、素敵なものなのだ。そのことを、ぜひ実感してください。

都築　響一（つづき・きょういち）

1976 年より雑誌『ポパイ』『ブルータス』誌等で現代美術、 建築、 写真、 デザインなどの分野の執筆活動や書籍編集に携わる。 1993 年に東京生活者の居住空間を捉えた写真集『TOKYO STYLE』（京都書院）を刊行。 1996年には日本各地の奇妙な名所を訪ね歩く『珍日本紀行』の雑誌連載をまとめた『ROADSIDE JAPAN』（アスペクト）により第 23 回木村伊兵衛賞を受賞。 多彩なテーマを手がけるなかで、『性豪 安田老人回想録』（アスペクト）、『巡礼～珍日本超老伝～』（双葉社）といった、 現代日本における「老い」に新たな視点をもたらす意欲的な作品も発表している。

林　幸治郎（はやし・こうじろう）

大学在学中、 ちんどん屋の演奏に心惹かれ、「ちんどん研究会」を結成。 大阪の老舗ちんどん屋「青空宣伝社」での修行を経て、 1984 年にちんどん屋集団「ちんどん通信社」を旗揚げ。 独自の経営理念とユニークかつ着実な活動が評判を得る。 1994 年に有限会社東西屋設立。 毎年4月に富山で開催される「全日本チンドンコンクール」では9回の優勝を誇り、海外公演も数多い。 著書に『ぼくたちのちんどん屋日記』（新宿書房）、『ちんどん屋です。』（思想の科学社）、『チンドン屋！幸治郎』（新宿書房）がある。

濱野　清志（はまの・きよし）

臨床心理学を専攻。 主著に『覚醒する心体－こころの自然／からだの自然』（新曜社）。 主に臨床心理学における「気」イメージや「気」の概念の活用に関する研究を続けている。 また、 気功の実践を続けながら、 東洋的「養生」のありかたを模索している。

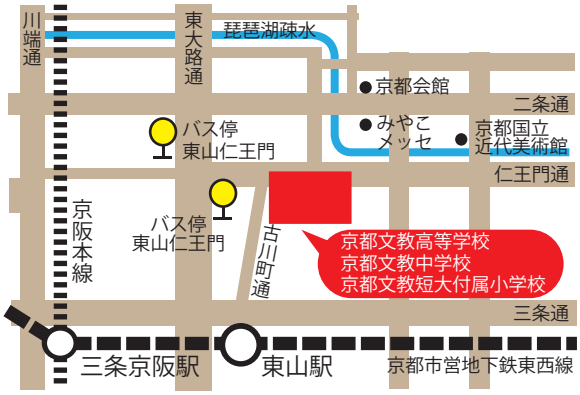
鵜飼　正樹（うかい・まさき）

研究分野は、 社会学・大衆文化論。 研究のため大衆演劇の一座に弟子入りし、 役者・南條まさきとして1年間舞台に立つ。 そのときの波瀾万丈の記録を後年に『大衆演劇への旅』（未来社）としてまとめる。 その他の著書に『見世物稼業　安田里美一代記』、『見世物小屋の文化誌』（ともに新宿書房）など。

●交通案内

・京都市営地下鉄東西線「東山駅」下車、徒歩約５分
・京都市バス「東山仁王門」バス停下車すぐ

※駐車場は使用不可のため、公共交通機関をご利用ください。



●校舎案内

ご注意：当日は大島会館以外への立ち入りを固くお断りいたします。

お問い合わせ：京都文教大学人間学研究所　〒611-0041 宇治市槇島町千足８０番地
メール：human@po.kbu.ac.jp　電話：0774-25-2494（研究支援課・立石）